様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月　 ３ 日現在

機関番号：３２６７５
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５３１０２２

研究課題名（和文）ソーシャルキャピタルの再生にむけた地元学の創造と地域学習の展開に関する研究

研究課題名（英文）Research for the Development of Community Learning directed to Reviatalization of the Social Capital..

研究代表者
佐藤　一子（SATO, Katsuko）

法政大学・キャリアデザイン学部・教授

研究者番号：６０１１４２１１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：地域社会に継承されているソーシャル・キャピタルを活用しながら、地域住民が地域学習をおこない、地域再生の方向性を共有し、地域文化の創造的発展に資する活動に注目して事例研究をおこなった。
平成24年度から26年の3年間に、埼玉県深谷市の歴史的資源を活用した文化的まちづくり、岩手県遠野市の民話のふるさとづくり、山形県庄内地方の魚食文化の継承についてフィールドワークを実施した。これらの事例は、地域学習の組織化と地方自治体と住民諸団体の協働・連携のモデルを示している。これらをふまえて総括的に「地域学習」モデルの実践的展開の構造を明らかにした。

研究成果の概要（英文）： I performed case studies, and focused at the process in which utilizing the social capital inherited by the community,the local resident share the directions of local revitalization and participate in the activities which contributes to creative development of the local culture.
In three years (2012-2014), I promoted field studies in the three regions, for the first, City of Fukaya in the Saitama prefecture where cultural city planning is realized utilizing the historical resources. For the second, City of Tono in the Iwate prefecture where succession of the folktales for the idea of home country is promoted. And for the last, Shonai region of the Yamagata Prefecture where the fish-eating culture is succeed. These three cases suggest models of organization of community learning and forms of networks between local governments and citizens' organizations. Based on these cases, I clarified structure of the practical deployment of the "community learning" model in the gross.

研究分野：社会教育学・生涯学習論

キーワード：地域再生　食文化　語り部　地域学習　生活文化の継承　地元学

１．研究開始当初の背景

（１）ソーシャル・キャピタルへの関心

1980 年代以降のソーシャル・キャピタルの再生をめぐる社会的関心の高まりを背景として、政治学、社会学などの理論的探求が国際的に広がっていた。ソーシャル・キャピタルをめぐっては、アメリカの J.コールマンや K.パットナムらの研究によって、共同体の互酬性の高まりが、経済効率を超えて現代社会を支える重要な要素となることが示されている。問題は、そうしたソーシャル・キャピタルが衰退しつつあり、いかにしてそれを再生するか、そのための地域づくりの「良い経験」(good practice)の検討が求められており、また地域に伝統的に継承されてきたそれぞれの地域に特有のソーシャル・キャピタルの固有の特性を解明すること、さらには地域ごとの比較研究、再生のアクターとしての社会組織のありかたなどが広く検討されつつあった。また国際機関、日本の政策動向としても「地域力向上」の観点からソーシャル・キャピタルの継承と発展をふまえて地域政策が模索されつつあった。

（２）社会教育学研究における状況

ソーシャル・キャピタルの継承・発展を住民の学習過程の問題と結びつけてとらえるとき、1990 年代から全国的に広がりをみていた「地元学」の実践的創造が注目される。地元学は水俣の環境保全的な地域づくり、あるいは東北農村の地域再生の過程で吉本哲郎や結城登美雄らが提唱したことで知られるが、その土地の歴史・地理・文化を中心とする学習として地域の名を冠した「地域学」は、都市・農村を問わず社会教育・生涯学習の領域でも全国的な広がりをみている。日本社会教育学会の共同研究においても、このような状況を「ローカルな知の可能性」として注目している（日本社会教育学会編『＜ローカルな知＞の可能性』(2008 年、東洋館出版社)。こうした地元学・地域学の幅広いとりくみのなかでも、地域のソーシャル・キャピタルの継承と結びついた課題解決や担い手の養成がどのような展開をみせているのか、本研究では「社会教育」で用いられてきた「地域づくり学習」の概念・用語理解を超えて、学校教育における「地域学習」、発展途上地域の開発援助の手法として用いられているコミュニティ・ラーニングなどの動向も視野に入れて、研究計画を立案することになった。

２．研究の目的

本研究では、1980 年代～90 年代にかけて筆者が提唱した「文化協同」の概念を住民の学習の新たな展開の中でとらえ返し、「地域学習」という学習モデルによる再構築を試みることを目的としている。

（１）「地域学習」（コミュニティ・ラーニング）の概念枠組みの検討

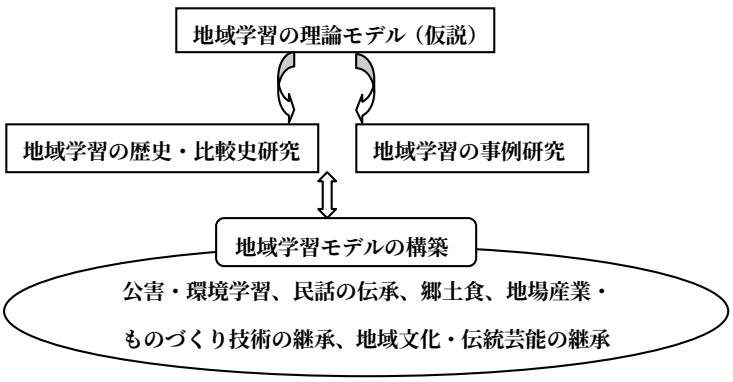
社会教育研究では、1980 年代に広がった「生涯学習」に代わって、「地域社会教育・地域生涯学習」という用語によって住民の学習と地域づくりとの連関に注目し、新たな公共性形成の過程を重視する動向がみられる。筆者が比較研究としてとりくんできたイタリアの成人教育でも、歴史的街区保存やスローフード運動などを通じて地域再生にむけたボランティア学習がおこなわれている。本研究ではこれらに留意しながら、「地域学習」（コミュニティ・ラーニング）の概念・用語の検討をおこない、ソーシャル・キャピタルの再生と次世代形成の課題を視野に入れた地域住民の共同学習・実践知の生成過程を示す概念として「地域学習」の検討をおこなう。

（２）「地域学習」の事例研究

実際に「地域学習」の展開過程をどうとらえることができるか、事例に即してフィールド調査をおこなうこととした。本研究では、公害・環境学習、民話の伝承、地場産業・ものづくり技術の継承、地域文化・伝統芸能の継承、歴史的街区保存運動などを「地域学習」の事例として想定し、特にこうした事例が豊富である東北地方の動向に注目して事例の調査研究を実施した。

（３）「地域学習」の学習モデルの提示

研究の手続きは下記の概念図に示される。



３．研究の方法

（１）地域学習の先行研究として、特に「地域と教育」をめぐる教育思想の系譜に注目し、学説的検討をおこなう。

（２）事例として、過去の「文化協同」のモデルとなった埼玉県深谷市において、その後の地域学習の展開をあとづける予備的調査をおこない、ついで本研究の事例調査として岩手県遠野市の民話の伝承活動と山形県庄内地方における食文化の伝承の二つの事例調査をおこなう。

（３）研究方法として、学習の組織的推進の担い手と住民の学習の両側面に注目し、地方自治体行政機関・当該事業の所管課と大学等の学術機関、住民側の組織（町内会、商工会、農協、漁協、文化団体、サークル等）の聞き

取りを実施し、さらに民話や郷土食の伝承者にはライフストリー研究の方法にもとづくインタビュー調査を実施することとした。

４．研究成果

（１）「地域と教育」をめぐる学説研究

「地域学習」の学習モデルを構築する上で、戦後日本の教育思想の系譜にどう位置づけるかを検討するために、「地域と教育」思想の代表的論者である大田堯、北田耕也、藤岡貞彦の３人の教育思想の生成過程に注目し、それぞれの研究の背景となった歴史的な地域課題や文化的状況を精査したうえで質問項目を作成してインタビュー調査を実施して考察をおこなった。その成果は本研究の中間報告書『戦後教育思想における「地域と教育」への問い』（2013 年 8 月）に収録した。ここで浮き彫りになっているのは、戦後新教育思想による地域教育計画モデルが実生活に即した子どもの認識を形成する教育実践や教師・社会教育職員の地域課題への覚醒と住民との共同学習によって反省的に再考され、リアルな地域現実や民衆の文化的営みの中で、新たな実践モデルとして捉えなおされていった過程である。生活綴り方、公害学習運動、民衆の表現などによる学習過程から「地域と教育」論が構築されてきた戦後教育思想の系譜を検証する作業は、本研究の事例を深めるうえで示唆的である。

（２）深谷市、岩手県遠野市、山形県庄内地方における事例研究

３年間の研究期間をかけて実施した三つの地域における事例研究は、法政大学キャリアデザイン学部紀要 9 号～12 号（2011 年度～2014 年度）に「研究ノート地域学習論（1）～(4)」としてモノグラフを連載し、そのうえで本研究のまとめとして本研究の最終報告書『生活文化の継承と創造的発展における地域学習のネットワーク形成』(2015 年２月）を刊行した。

深谷市の事例では、中山道沿いに位置する江戸期のつくり酒屋の建物にコミュニティシネマ（NPO 法人深谷シネマ）をはじめ、多様な活動団体が集い、新たな共同活動を創出しながら、文化的まちづくりへの発信拠点となっていくプロセスが明らかにされた。

岩手県遠野市では、人々の生活から忘却されていった昔話を生活文化の豊かさとして再認識し、「民話のふるさとづくり」を推進していった町づくりの過程が文化の公共空間形成の基礎をなしているが、同時に NPO 法人遠野物語研究所の講座・セミナー活動を通じて、昔話の文化的価値を市民の中に呼び起こし、昔話を断片的に記憶していた人々を新たな世代の語り部として養成していく地域学習の過程が担い手形成という点で重要性をもつ。そのとりくみは現在、商工会など市民全体のとりくみや小中学校の教育実践にひろがりつつある。

山形県庄内地方においても、伝統的な魚食文化の生活習慣が衰退していく 1990 年代から、その価値に気付き、発信する人々が登場する 2000 年代にかけて、いわば食文化創造をめぐる地域学習のネットワークが形成されていたことが明らかになった。行政の地域政策の推進が重要性をもつとともに、魚食にかかわる多様な職業・市民団体（漁協、生協、小売業、レストラン、食文化団体等）のネットワークが広がり、大学等の研究機関の地域連携も重要な役割を果たしていることが示された。

（３）地域文化の伝承者のライフストーリー

岩手県遠野市の語り部と山形県庄内地方の浜文化伝道師（魚食文化の継承者）をめぐってそれぞれ 10 人ほどの担い手を対象とするライフストリー研究をおこなった。本来、生活文化を語り継ぐ行為は地域社会で広く行われてきたが、いずれも高度経済成長期の地域社会の変貌の中で失われていき、その価値も忘れられていく。二つの地域で現在、伝承者として活動している人々は、幼少期に生活の中にあたりまえにふれることのできた地域文化の価値に気付く「記憶の呼び起こし」「価値の再認識」「学習による再発見」のプロセスを経ていることが特徴的である。

伝承者たちは、かつてのように地域社会に日常的に埋め込まれていた役割を継承するというよりは、行政の支援と認証、学習と対話のなかでの役割の自覚、新たな地域学習のネットワークのつなぎ手としての活動などを行っており、地域学習のキーパーソンとなっている。幼少期の経験知とともに、新たな学習過程の創出過程に参加することなしには、生活文化の伝承が困難であることをそのライフストリーは示しているといえる。

（４）「地域学習」モデルの構築

以上の事例研究を経て、「地域学習」の理論的モデルの仮説は、実証的なモデルとしてとらえられた。その本格的検討は、筆者が編集した『地域学習の創造』(2015 年 2 月刊、東京大学出版会）において示すことができた。要約的に述べるとすれば、生活文化の伝承過程においては、その現代的意義の再評価が重要な意味をもつということである。古いもの、伝統的なもの自体に価値を見出す文化財保護的な認識の重要性も否定できないが、それ以上に、伝統的な生活文化のもつ意味の再発見、現代生活をより豊かにしていく視点との統合、人と人との新たな関係性の創出、結果として、地域住民、特に次世代の子ども・若者が育ちあいながら豊かな生活文化を享受する可能性を見出していく学習が不可欠である。それは環境保護的であり、多様性があり、自立的な地域性に立脚している。そういう意味では、ESD の推進や経済政策的な地域創生においても生活文化の継承と発展にもとづく地域学習の展開は不可欠といえる。

他方で、本研究では、深谷市、遠野市、山形県庄内地方の三つの地域の事例研究にとどまり、地域学習のモデルとして想定した学習の課題も民話と食文化の伝承に限定され、より多様な生活文化の広がりに目をむけることはできなかった。今後に期したいと思う。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　5　件）
①佐藤一子「研究ノート　地域学習論（４）魚食文化の継承と地域学習ネットワークの構築ー山形県庄内浜文化伝道師の養成と活動ー」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』第 12 号、2015.3　pp.51-89.（査読なし）
②佐藤一子「研究ノート　地域学習論（3）文化創造的営為としての昔話の口承活動ー遠野の語り部たちのライフストーリーの考察ー」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』第 11 号、2014.3　pp.245-277（査読なし）
③佐藤一子「生活の共同性を育む学び」『月刊社会教育』No.793、 2013.9、 pp.42-43.（査読なし）
④佐藤一子「研究ノート　地域学習論(2)昔話の継承と地域学習の展開過程ー岩手県遠野市の『民話のふるさと』づくりと語り部たちの活動ー」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』第 10 号、2013.3　pp.339-382.
⑤佐藤一子「研究ノート　地域学習論（1）地域再生にむけたソーシャル・キャピタルの継承と地域学習の展開過程ー埼玉県深谷市の事例研究を中心にー」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』第 9 号、2012.3、pp.465-492.（査読なし）

〔学会発表〕（計 2　件）
①佐藤一子「魚食文化の継承と地域学習のネットワークの構築ー山形県庄内浜の食文化伝道師の養成と活動を中心に」（日本社会教育学会第 61 回研究大会自由研究発表）2014.9.27　福井県福井市、福井大学
②佐藤一子「昔話の口承と地域文化創造」日本社会教育学会第 60 回研究大会自由研究発表)、2013.9.28、東京都小金井市、東京学芸大学

〔図書〕（計　４　件）
①佐藤一子編著『地域学習の創造ー地域再生への学びを拓く』2015、東京大学出版会、(序章「地域学習の思想と方法」担当執筆、pp.1-23)、総頁　p.318.
②佐藤一子「市民の学びと NPO」小林文人編『日本の社会教育・生涯学習』2013、大学出版、（分担執筆　pp.223-235）総頁 p.274.
③佐藤一子「社会を創る市民の学びと講座の役割」朝岡幸彦編『講座づくりのコツとワザ』2013、国土社、（分担執筆 、pp.8-16）総頁 p.183.
④佐藤一子「被災地支援の学びと連帯ー再生にむけた『社会を創る学び』」石井山竜平編『東日本大震災と社会教育　3.11 後の世界にむきあう学習を拓く』2012、国土社、（分担執筆、pp.175-183）総頁 p.198.

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0　件）

○取得状況（計 0　件）

〔その他〕
ホームページ等　なし

６．研究組織
(1)研究代表者
佐藤　一子（SATO, Katsuko）
法政大学・キャリアデザイン学部・教授
研究者番号：６０１１４２１１